

長野県

長野県 農政部 農業政策課 農産物マーケティング室
地域事務局：株式会社産直新聞社

CASE STUDY

事例



食べよう!つくろう! 信州こむぎ大行動!!

LFP
パートナー数
141
社・団体
2024.1現在

プロジェクト創出に至るまで

- ▶プラットフォームには、JA全農長野、信州おやき協議会、柄木田製粉(株)、県内の農産物直売所5店、学校給食関係者、食品メーカー[(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)大福食品工業、(株)マツザワ]等が参画。
- ▶今年度は、県産小麦に着目し、消費者の認知不足、生産面における収益性や品質確保の難しさによる生産量の伸び悩みなどの課題解決を図ることとしました。
- ▶「信州こむぎ大行動」と題し、県内26団体・個人がそれぞれ県産小麦を活用した商品を開発し、販売会や試食会を通して消費者へ向けたPRを展開するとともに、需要側の反応などを生産者へフィードバックし、生産拡大の気運醸成を図る取り組みを進めています。



左：共同記者会見で発表された新商品。おやき・パン・アップルパイ・肉まんなど、計21品目が開発されました。

右：長野県庁ロビーにて行われた試食会の様子。開発者自身が会場に立って商品の特色を説明したり、開発エピソードを話すこともありました。



STORY

プロジェクトの進行過程

持続的・創発的な
仕組み作りに
力をいれています。



長野県 農政部農産物マーケティング室 田原 裕一さん
株式会社産直新聞社(地域事務局)
毛賀澤 明宏さん 平川 萌々子さん 大杉 奏さん



2023年11月
共同記者会見

「食べよう!つくろう!信州こむぎ大行動!」のキックオフとなる共同記者会見を実施しました。製粉会社や食品メーカー、JA全農長野、農産物直売所、セブン-イレブン・ジャパンなどから11名が参加。メンバーの気持ちが1つに!

VOICE

プロジェクトメンバーの声



株式会社セブン-イレブン・ジャパン
商品本部地区MD統括部
甲信越・北陸地区 マーチャンダイザー
大和田 駿さん

LFPで叶える 地元食材の普及と ビジネスチャンス

地元の製粉メーカー、土産店や飲食店、農家、業態も規模も異なる多種多様なメンバーがプロジェクトに集まりました。まずはLFPへの理解や県内農業の現状などの研修会を行い、足並みを揃えるところからスタート。信州産小麦を使って26団体・個人が各々で商品開発を進め、一般の方にご参加いただいた試食会やメンバー間での報告会などを実施し、意見の交換を行いました。足並みを揃えて始まったことで、「信州産小麦」という一つの課題に向き合った、またとない良い機会にできたのではないかと思います。LFPの活動では、普段の事業では知り合えなかった地元事業者様も多く、刺激や知見を得られました。今後の企画や営業に繋がる可能性も大きく、ビジネスマッチングという意味でも有意義ですし、今後も大きな可能性を持ったプロジェクトだと感じています。

2023年11月
試食会の実施

「信州こむぎ大行動」の一環として県内2カ所で試食会を開催。11月23日に開催したJR長野駅での試食会には、多くの方にご試食いただき、用意した700食の試食品は1時間で無くなりました。



2023年11月
県産小麦100%の
学校給食

山形小学校で県産小麦を使用したコッペパン、約560食を提供。学校給食会や製粉会社などとの連携によって実現し、児童は「ふわふわで美味しい!」とパンの味や食感を楽しみました。

今後の展望

1月には「信州こむぎ研修会」を開催し、生産者に対して販売会や試食会を通じた消費者の声を共有し、小麦の生産拡大を呼びかけました。今後も生産量の伸び悩みなどの課題解決を目指して取り組みを継続していきます。

